市民談話室

投稿をお待ちしています。この「市民談話室」は、市民の皆さんの意見交換の場です。テーマは自由です。あなたがふだん思っていることをお書きになって気軽にお寄せください。紙面の都合上、文を短くすることがあります。あて先は、〒九五〇―一二　白根市大字白根一二三五　白根市役所企画財政課広報広聴係です。

働く高校生（アルバイトを使って、桃の出荷に忙しい茨曽根撰果場）

桃の袋かけ

手伝いに来てくれた高校生に感謝

青山好美さん（上茨・農業・49歳）

梅雨の晴れ間の暑い日曜日に、高校生三人が桃の袋かけの手伝いに来てくれたので、ほんとうに助かりました。

農家の子供でさえ仕事の手伝いをしている姿が見られないこのごろ、この子供たちには大事な休みなのに、早朝から夕方まで汗を流してがんばったのには感心させられました。

子供たちが恥ずかしがると思い、また私たちとは別の畑だったため、このときは何も言えませんでした。しかし、どうしても感謝のことばを伝えたくて、この紙面をお借りしてお礼申し上げます。これからも忙しいとき、勇気を持って仕事を手伝ってもらえれば、こんなにうれしいことはありません。

今後、子供たちが果物を食べるとき、自分で汗を流しながら袋をかけたことを思い出すと、よりいっそうおいしさが増すのではないかと思います。

きっとあの子供たちは、学校の勉強や仕事にも歯を食いしばり、最後までがんばるんだろうな……と思いながらペンを取った次第です。

男の花道

これからも白根市発展のために

青木きよ子さん（大通一丁目・主婦・58歳）

〝今期限りで引退の白根市長〟寝耳に水でした。

いつも笑顔を忘れない友人のような情深い市長さん。白根市民の良き父であり、指導者であり、尊敬しています。

美紀夫人の健康を案じての覚悟とか。市長が日夜、重責と激務を余すところなくこなせたのも、夫人の内助の功があったからこそと思います。

「これからは、じっくり夫婦して楽しめばいいこっつぁさね」と今は亡き川上さんの声が聞こえてきます。病に勝てなかった新潟市長の弁。「ふってェ音出して言えねェどもさ、この辺で俺ァちいとばか勘弁してもろて休みてんだて。このままじゃ体も心もボロボロに擦り切れてしまいそげだてば、ほんの冗談だどもさ……」。市長職はなまやさしい職務ではありません。これは共通の本音でしょう。

災害市長の異名で「米俵事件」でも、歴史上の大人物。連続六期の県下最多選市長で、県市長会の会長。正にギネスブックもんです。ほんとうにご苦労さまでした。

私どもファンは残念ですが、人生八十年時代、健康第一にし、今後とも市政のため、市民のため、白根市発展のために、ぜひ水戸黄門の心で知恵を貸してください。

男の花道、拍手かっさい！健康が何よりの財産です。お体をお大事にしてください。

植物観察会に参加して

新しい自然との出会いに新鮮な感激

東樹友次さん（鳥潟・無職・72歳）

この調査は、動物四十種類、植物二種類の発見場所を細分化された地図に記載し、十二月に報告するという仕事です。

奉仕活動で何かないものかと思っていたところ、新聞やテレビなどで「緑の国勢調査」のことを知り、早速参加を申し込みました。そして、このことから、理科センターが主催する植物観察会に参加してみました。

初めて知る植物の名称。その数の多いことに驚くとともに、新鮮な感激で胸を震わせ、山の清浄さにすっかり魅せられ、堆積した心のほこりを洗い流した心地でした。

草や木が、私の生命と交流していることを、しみじみと実感し、そして、あまりにも無感心であった過去に自分を恥じ、後悔の涙を催しました。

ヤング・ストリート

子供はほんとうに正直なんです

星　明美さん
（次郎右エ門興野・24歳・小学校講師）

朝、学校へ通ってくる子供たちの笑顔を見ていると、この仕事を選んでよかったなと感じてます。

勉強をただ教えるだけでなく、常に子供たちといっしょに見て、考えて、やってみるというようにしています。いかにして子供の心をひきつけ、興味を持たせるかが難しいところですね。

私、ソフトボールをやっていて、真っ黒に日に焼けているでしょ。ある日、子供たちに私の絵をかかせたら、顔を黒く塗りつぶすんです。それを見て子供ってほんとうに正直なんだなと思いました。

早く正式に教師になりたいですね。せっかくなれてきた子供たちを、途中で手放さなければならないことが、いちばん残念でしかたありません。もっと勉強してがんばらなければと思っています。

市民文芸

俳句

夏痩せかもらった指輪くるくると　玉木　長吉
浜茄子や瀬波の宿の磯つたい　大笛　豊治

川柳

野球帽この子に期待かけている　佐藤トミノ
肩のこる話は出ないお茶仲間　織田　セツ
カレンダーの印に疑惑が湧いてくる　田中　成子
カタツムリ森林浴としゃれている　後藤マサノ
貸し借りの無い生活が性に合い　竹石　甚五
髪染めて二ツ三ツは若く見せ　野内熊太郎
薄化粧二度惚れさせる妻五十　佐藤　ヨキ
金持ちに成り損なった馬券捨て　今井　タエ
OBの知らせは訃報ばかりくる　田村　恒夫
銭の音残し三途の川渡る　吉川　末吉
風向きをこれから決めるアンケート　高橋祐四雄
地球儀に毛程の川に鮭帰る　中村　尚治
低音で焦点ぼかす二枚舌　吉川　彰
妥協して呑んだ特級酒がにがい　今井　七郎
夕焼けの朱に染りたく坂のぼる　山岡　フミ
再会の友さわやかな置土産　西条　ムラ
手作りの素朴さを売る民芸品　岡村　清

短歌

虫すだき声際高く法師蟬
秋近きらし背戸の夕暮　中村　京
我は今夫の思い出胸にして
病みし体いたわり生る　大野タケノ